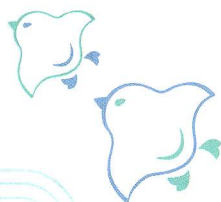


京潮の香り

京都駅前新たな飲食店事情、 七条通は人の流れを復興できるのか。



今、京都の地代がここに来てまた上っている。東京資本を中心に外部の資本が流入しているからであるが、ここ数年得体の知らない金主が、町家やバブル期の事故物件などを物色しては、エセ京都を売り物にした、いわゆる東京バブルなヤドカリ商法を蔓延らせている。町中の賃貸家賃でも1万2千円〜1万5千円程度が普通であった坪単価が2万円〜3万円まで膨れ上がり、本業を仕舞い家賃収入で生業を立てようとする地元の家主にとっても都合な話だ。

京都の外食産業分布図も、客単価構成を優先するべく若年層が集まっていた木屋町、河原町から撤退の傾向にある。目下のところその矛先は確実に客単価が5〜8千円取れる、烏丸御池や四条烏丸といったオフィス街に向けられている。

そんな中、地元で飲食を真面目に営む連中にとつて先に駒を進めておかねばならない重要な市場マーケットがある。七条通がそれだ。京都駅ビル内の飲食店街人気も一応に落ち着きを見せ、黛グループに代表される外食産業系お洒落居酒屋も、昨年改装したばかりの京都タワーのスカイラウンジも、ほどよい人気を見せてはいるものの、普段着使いの店々とは一線を画した存在な

のが正直なところである。

田プラッツ近鉄裏に形成された暖簾街はすでに成熟した感があり、リド飲食店街はテナントの半分が今時の店に世代交代しつつも、昔ながらの辺りの雰囲気「じじいば」や「DOS」、「門」や「赤星」がしっかりと溶け込む。町内会の老舗酒屋が太公望で板場経験のある息子に、3年ほど前から店の夜を委ねた「若松屋」が連日の大入り満員を見れば、同じように地域密着型・屋台構成の「ニューエビス」がリーマン心を鷲掴みにし、かと思えば、下町風情の鉄板酒場「茶ばな」が同じ通に2軒も出店する勢いだ。「ちゃんどグループ」でその腕を磨いた石焼地鶏「石庵」のオーナー田中氏も七条通にはただならぬ執念を燃やす。牛たん処「たん味屋」をオープンさせたかと思えば変り種に工夫を凝らす、串かつ「こぼん」の追撃で他店を陵駕する。「ぎんなん」「菜屋」「菜膳」が参戦し、長年この地で地道に商売をしてきたレストラン「七番館」もその方向性を先ごろ女性シフトにチェンジさせた。また近くに潜む「北海もの」の魚介を売りにする「鱈」や「どんぐり」の進出も決して見逃すワケにはいかない…。

こうなると、七条京阪界隈を本丸にして

いた男が黙っていない。しびれを切らしたのか、満を持したのか「まんぞうハーツ」の城主、岸本万三がついにその腰を上げた。先に祇園で仕掛けた味噌漬けの肉や魚介を富士山麓から切り出した溶岩石に乗せて焼くという、「溶岩焼料理」。これは単純な石焼き手法で「石庵」の向こうを張るのではなく、京料理の素材やセンスを見事にフュージョンさせての臨戦態勢、七条西洞院に構えた新たな出丸に早くも勝ち名乗りを上げる公算ありのようだ。

すでにこの辺りの店々の売り上げに貢献する、京都駅前の新たな集客構造「ビックカメラ」の動員顧客とその従業員、そして'09年をめどに田プラッツ近鉄跡にオープンする「ヨドバシカメラ」の潜在顧客、そこに徘徊りながら偶然迷い込む外国人観光客と、駅前の人の動線がその範囲を広げ出した。はてさて京都駅周辺の七条通は、銀行や保険会社のビルが立ち並んだ昭和50年頃の賑やかな町並を復興させることができるのだろうか。

堀川〜川端間の七条通の飲食物件争奪戦はまだまだ続きそうである…。



①堀川通より東の七条通が新たな商圏として注目され始めた。当初京都駅から遠いとされた「セカンドハウス 西洞院店」も好調な客の入りを見せ、地元では頗る、最近ではユースホテル系宿泊客の外国人にも人気の、焼き鳥「大西」もすっかり君臨する。そしてこの界隈にこの春参戦したのが「一瞬(いちしゅん)」である。②向形態をとる暖簾街「キョウラク飲食街」とはその世代交代ぶりで歴然の差を見せるご存知「リド飲食店街」。巻頭特集でも紹介している「ホルモン焼 門(P.14)」をはじめ、新世代の活躍ぶりがある。③推測従業員数200名、普段使いができる飲み処を求めて「ビックカメラ」のスタッフもこの辺りに流れ始めた。もちろん「ヨドバシ」効果も楽しみである。④「粗味噌が響く! 焼き音が響く。富士の恵みを抱いた溶岩石に京の旬の素材が集まり躍る。」を売り文句に台頭してきた万三グループの新兵器「溶岩焼料理」。⑤2年ほど前に街なかからこの七条界隈に移転してきた北海料理「鱈」は富裕層な上質客をしっかりと掴む。北海ものも再燃の傾向か。

モックン・カズロー●京都生まれの京都育ち、生家は染屋という生粋の京都市。現在の「京都CF!」の根幹に携わった前編集長。現在は「京都CF!」のご意見番を務める傍ら、広告企画制作から同志社大学のプロジェクト講師まで、ジャンルを越えて京都にまつわる仕事に従事する。趣味のサーフィンより、街場の小波に乗るのが上手いとまぼろしの評判である。「京都CF!」スタッフブログ「ご意見番の無責任、町案内」連載中

撮影/遠藤基成 中島光行